

事業所名

わくわくキッズ倶楽部中部放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

R7 年

2 月

12 日

法人（事業所）理念	本来その子供が持っている可能性を引きだしていただける支援を目指します。「できるようになる」支援だけでなく「することの意味がわかる」支援を目指します。		
支援方針	児童発達支援・放課後等デイサービスを通じて幼児・児童が集団の中で活動していく力を習得することを中心に支援します。遊びや文化活動を通しての集団活動や社会適応訓練、基礎的な育成指導を行います		
営業時間	9 時	0 分から 18 時	0 分まで
	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	年齢が上がるにつれ、身体にも変化が起き、心に起きる葛藤が難しくなります。頭ではどうすべきか分かっていても、プライドや不安など、複雑な気持ちに混乱して行動に移せない。「気持ちに名前をつける」「強さに段階をつける」「絵にして描いてみる」など感情を客観視してコントロールする練習をします。	
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の感覚は、力加減や、体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。ミュージックケア・音楽遊びの活動にも含まれます。活動の中に運動教室を取り入れています。	
	認知・行動	「着席」「大人をよく見る」「話を聞く」「嫌なことも頑張ってみる」等、課題にむかう、学習姿勢を支援します。また、情報を適切に処理、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防方法を考えます。	
	言語コミュニケーション	「要求」「報告」「聴く」「模倣」「観察する」等、自分も周りも大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカード等、子どもにあった方法を一緒に考えます。暴力や、暴言など、社会的には不適切とされる行動も、	
	人間関係社会性	ソーシャルスキルの習得を目指します。ソーシャルスキルを使用すると、「やって良かった」「楽しい」と感じるなど、良い体験となるように設定をを考えています。集団での活動や、友達絵の関わりを通して実践的に学び身につけます。	
家族支援	日常生活において、本人の意思を大切にしながら、やり取りをする場面を増やします。	移行支援	日常的な連携に加え、特に行事等の際には、説明の方法や促し方について共有を図る。
地域支援・地域連携	関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案する。	職員の質の向上	社会福祉協議会等の研修参加 事業所間の情報共有によるレベルアップ
主な行事等	サッカー大会・節分（豆まき）・ひな祭り・プール遊び・夏祭り・ハロウィン・クリスマス等季節の行事を行います。 課外活動で動物園・水族館等施設の見学に行きます。		